

令和3年度職業能力開発論文コンクール「入賞者の声」

令和3年度職業能力開発論文コンクール特別賞（独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 理事長賞）に入賞された黒木 猛氏が、コンクール事務局の質問に回答してくださいました。

入賞者の声：

Q 1. 普段はどのような業務に携わられていますか。

私は職業訓練嘱託指導員として、専門課程の生産技術科で工作機械を使用したものづくりを担当しています。共著者の指導員については、担当する課程（専門課程または応用課程）の違いはありますが、同じ機械系の指導員として学生の指導に携わっています。

また、企業側の共著者2名が所属する会社では、自動車オイルシール用製造機械、金型および治具加工など、部品加工から装置組立までの一貫した作業を行っています。

Q 2. 今回の論文はどの業務に活用して貰いたい（どういった方に読んでいただきたい）ですか。

職業訓練指導員の方に読んでいただければと思います。取り組んだ内容をまとめた事例として、今後の参考にしていただければ幸いです。

Q 3. 今回の論文を作成する際に気を付けたことはございますか。

企業からの相談に対して、1級機械加工技能士が目指す次の段階の一つである特級機械加工技能士の取得を提案し、2つの共同研究において勉強会を実施しました。

1年目は教材作成、2年目は人材育成能力の向上が主な目標としましたので、それぞれの勉強会の内容、成果および作成した教材などを分かりやすく表現するように心掛けました。

Q 4. 今後の応募を検討されている方へのメッセージはございますか。

（特にありません）

Q 5. 今回の論文を執筆された心境やきっかけをお聞かせください。

執筆したきっかけは、論文コンクールへの応募を勧奨する連絡文書の中に「これまでに指導員が行ってきた職業能力開発の実践等を記録に残し、それを後輩に伝えるという側面があり、幅広く後輩の育成につながることを期待できること。」と記載してあったことです。

これまで、企業からの要望に応じて技能検定関連の支援を数多く実施してきました。今回の共同研究の内容が技能検定特級に関する内容ということもあり、2年間に実践した内容と成果を少しでも伝えることができればと思って執筆しました。

ご回答いただきどうもありがとうございました。

令和3年度職業能力開発論文コンクール事務局
基盤整備センター